

科目名				授業の種類	授業担当者
特別支援教育Ⅱ				演習	杉村 僚子
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修
2	1	30	15	後期	幼児：選択 保育士：必修
〔授業の目的・ねらい〕 特別支援教育Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、具体的な支援の方法について学び、実践に必要な知識を身につける。					
〔授業全体の内容と概要〕 幼稚園や保育所、認定こども園などの集団の場における支援が必要な子どもへの保育の方法について理解する。具体的には、子どもの理解の方法、発達支援の技法、支援計画の作成方法、保護者支援、関係機関との連携などについて学ぶ。また、子どもへの直接的支援だけではなく、子どもを取り巻く環境に着目した支援の方法について学ぶ。毎回、レジュメを配布し、そのレジュメに沿って授業を進めていく。授業の内容に関連した課題(小レポート、グループ討論、発表など)を通して、理解を深める。					
〔受講上の注意事項〕 ・ 授業の中で、レポート課題や小グループでの話し合いを実施するので、これらの課題に積極的に取り組み、理解を深めること。 ・ 授業時に配布した資料を適切に管理し、毎回持参していつでも参照できるようにすること。					
〔使用テキスト〕 新・基本保育シリーズ⑩ 障害児保育 (西村重稀・水田敏郎編集 中央法規)			〔評価基準〕 期末試験(60%)と授業中の課題(40%)		
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕					
回	項目	授業内容			
1	子どもの理解の方法Ⅰ	子どもを理解するための方法として、保護者からの聞き取りや行動観察などについて学ぶ。			
2	子どもの理解の方法Ⅱ	子どもを理解するための方法として、発達検査や知能検査といった心理検査について学ぶ。			
3	発達支援の技法Ⅰ	感覚統合やムーブメント教育といった感覚や運動に働きかける支援方法について学ぶ。			
4	発達支援の技法Ⅱ	ポーター早期教育プログラムやソーシャルスキルトレーニングなど応用行動分析に基づいた支援方法について学ぶ。			
5	発達支援の技法Ⅲ	構造化を中心としたTEACCHの手法を学ぶ。			
6	保育課程に基づく指導計画の作成と記録および評価	保育所保育指針に記載されている障害児保育の留意点等を理解した上で、統合保育の指導計画案の作成、記録、評価について学ぶ。			
7	個別の支援計画Ⅰ	アセスメントに基づいた支援計画の作成、実際の支援、支援の評価など、保育現場における支援の基本的枠組みについて理解する。			
8	個別の支援計画Ⅱ	アセスメントの重要性やそれに基づいた個別の支援計画の作成、評価について学ぶ。			
9	保護者や家庭に対する支援Ⅰ	障害をもつ子どもの保護者や家庭に対する支援の必要性、障害受容のプロセスについて理解する。			
10	保護者や家庭に対する支援Ⅱ	親やきょうだいへの支援の方法について学ぶ。			
11	地域の専門機関との連携	専門機関との連携の必要性、地域の専門機関の種類と役割、連携の方法について学ぶ。			
12	就学に向けた支援	就学までの流れや特別支援教育の概要について理解した上で、移行支援の実際と課題について学ぶ。			
13	保育現場における支援の実際Ⅰ	事例を通して、保育現場における障害をもつ子どもの支援の実際について理解を深める。			
14	保育現場における支援の実際Ⅱ	事例を通して、保育現場における障害をもつ子どもの支援の実際について考察を深める。			
15	まとめと試験	これまでの内容を総括し、試験を行う。			

実務教員としての経歴	
実務経験と授業の関連	